

日銀の視点

県内の学校に委嘱している金融経済教育の研究校制度。その一環として、複数の学校の授業を拝見する機会を得た。そこは、先生方の創意工夫にあふれた取り組みにより、進歩的な学習が実践され、意欲的に学ぶ生徒たちの姿があった。

例えば、ある高校の数学の授業では、奨学金を借りた場合の毎月の債務残高の推移を数式で計算する授業が行われていた。数式による集約化を通じて、返済計画により総利

日銀水戸事務所長 稲見 征史

息、返済期間に差がでること
を理論的かつ簡便に把握でき
る内容となっていた。難易度
が増し、学ぶことに心理的障
壁も出てくる高校数学の分野
で、自分たちの将来に関係す
る実例を基に生徒たちの興味

の先生による授業ではおのず
と提示できる情報に限界があ
る中、生成人工知能(AI)
の活用により、多角的な情報
や論点が提示され生徒たちが
検討を深めることができ
た点だ。新しいツールを的確

ケースを提示し、為替相場の
変動がわれわれに与える影響
を考察していた。為替レート
の決定要因や、為替相場の推
移から見える日本経済の構造
変化や国際競争力といった発
展的な論点について、今後考

済教育も複雑な社会を生き抜
くために重要なテーマとして
扱われるようになっていく。
言語学者のノーム・チョム
スキーも言及しているよう
に、子どもたちの自然な好奇
心を育み、内面からの興味に
根差した教育をすることが、

無限の可能性開く学校

を引き出していた。

一方、中学校の授業では、
食品製造業をテーマにしたグ
ループワークが行われてい
た。生徒たちは、材料費や商
品性などを基にキーキの値段
を設定し、事業化の余地を話
し合う。特筆すべきは、一人

に導入した若い教員の工夫に
は感心させられた。
また、別のクラスでは為替
レートに関する授業も見学し
た。逆の意味に捉えがちな円
高・円安の概念を、日常生活
や日本経済との関係に結び付
けて学ぶもので、いくつかの

習指導要領が提唱する「生き
る力」の育成が着実に進んで
いることを実感した。知識詰
め込み型の教育とは異なり、
主体的・対話的な学びや社会
に開かれた教育課程を通じ
て、子どもたちの興味を引き
出している。その中で、金融経

その導き方や仕掛けづくり次
第で、子どもたちの探究心や
思考力などの多面的な能力を
一層伸ばさせる余地がある。
日頃の取り組みへの敬意と
もに、現代の学校は無限の可
能性が開けている空間である
と実感した。